

博士学位論文主旨

論文題名 中国内陸部貧困地域における親の教育戦略に関する実証研究

—公立高校間格差と社会関係資本の役割に着目して—

提出者 劉 蒼（中央大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程5年）

論文の要旨（本文）

一、論文の主題と位置づけ

中国の高校教育は、大学への予備選抜的な性質を強く持ち、大学選抜の前に生徒を振り分ける機能を持っている（張 2021）。とりわけ、1950年代以降、一部の都市に公立重点高校（以下略称:重点高校）を設ける重点学校政策が実施され、教育施設や教師の資質などが充実し大学進学率が上昇することで、重点高校が重点大学へのエスカレーター装置になった。その一方、非重点高校は教育資源が窮乏し学校教育の水準が著しく低下し、重点高校と非重点高校との進学先の格差が顕在化してきた。一言でいえば、重点高校進学は将来の社会的成功につながるのである。

中国において、高学歴の取得は、よりよい職業を得る社会階層の垂直的移動と農村から都市へ出る地域の水平的移動の「二重の上昇移動」に最も有効な手段とされている（篠原 2007）。学歴競争が激しくなればなるほど、教育の市場化が進めば進むほど、親の進学に関する選択が重要になっていく。親は、子どもを進学競争で勝ち抜かせるため、さまざまな進学に向けた方法、いわゆる「教育戦略」を駆使することになり、結果、親の教育戦略が子どもの進学を左右する「ペアレントクラシー」（Brown 1997）が拡大していくことになっている。

顕著な事例として、重点高校では「択校生」という特別募集枠制度による入学が認められている。入学点数の不足した生徒に対して、親が特別な経費を納入すると、高校側が入学を許可する制度であり、中国全土で実施されている。「択校生」制度の基準は公的には明文化されておらず曖昧であるため、単にお金が出せるという親の経済力によってすべてが決まるわけではなく、制度を利用するためには、親が所有している教育の仕組みに関する情報や教育関連の有力者とのコネクションなど「社会関係資本」の影響が大きいとみられる。

ここでいう社会関係資本は、行為者間の関係の構造に内在し、行為者が利益のために社会ネットワークを通じて獲得できる資源である（Coleman 1988=2006）。中国人社会学者リンによれば、社会関係資本は行為者が見返りを期待して行う、社会関係に対する戦略的な投資である（Lin 2001）。つまり、社会関係資本は行為者が社会ネットワーク

に埋め込まれた資源を獲得するため、戦略的に他者との社会関係への投資を行うこと（例えば、接待することや物を贈与することなどさまざま）である。

中国では、実際子どもの教育において、親の社会ネットワークから生み出された人脈や情報、そのコネクションが大きな役割を演じてきた。例えば、親は教育関係者や親同士とのネットワークを構築し、利用可能な教育の戦略（詳細は後述するが、推薦入試や特別入試枠、自主学生募集など大学入試の優遇諸制度）を探し出す。いいかえれば、自分が所有する社会関係資本を使って、さまざまな進学制度を活用し、子どもの進学機会をよりよくすることができる。

また、中国では、高校側が日本のような受験生と保護者のための大学や入試情報を提供できる進学相談会などを設けていない。しかも、高校は教育の実践でも受験を重視しており、親は生徒の成績で教師の指導能力を評価しやすい。その結果、教師は、親と進学の相談や懇談はせず、担当生徒の成績が上がることだけに力を入れる。結局、親が、学校や教師あるいは地域の教育関係者に、進学に関する情報や進学の有利な戦略について聞きだすしか方法がないのである。

このように、社会関係資本を多く有している親は、子どもにより良い進学機会を獲得させる教育戦略を選択することができる。それによって、子どもの教育達成を媒介とした家族の社会上昇移動を実現する可能性が高くなる。一方、社会関係資本が欠如する親は、進学に対する教育戦略に取り組むことができず、進学を子ども自身に任せるより他にない。つまり、親が所有する社会関係資本の多寡により、子どもの教育機会とりわけ進学機会の不平等や格差が生じてしまう。

以上の問題意識に基づいて、本論文では、中国内陸部の貧困地域を取り上げ、社会関係資本の論考などを参照しながら、高校間格差と親の教育戦略の関係に着目し分析する。その際、親の社会関係資本が、進学機会の獲得にどのようなはたらきをしているかを進学制度の活用事例を通して具体的に検討し、進学機会の不平等・格差を加速させている実態とそのメカニズムを実証的に分析していく。

本研究では、地方の地域社会での、とりわけ有力な教育関係者との社会ネットワークの構築・維持、そこでの社会関係資本の獲得と親の選択的教育戦略との関連が主に質的研究から明らかになった。いいかえれば、教師と仲良く付き合ったり、良い高校の保護者グループと情報交換したりするなど日常的なネットワークの構築が、社会関係資本による親の教育戦略の差を生んでいく。この動的なメカニズムを、高校進学時・在学時・大学進学時の3地点から明らかにすることで、中国の教育機会の不平等に関するこれまでの研究の不足を埋める研究を行うことができた。

二、論文の目次

序章 問題の所在と本研究の構造

- 第1節 本研究の問題意識
- 第2節 先行研究のレビューと課題設定
- 第3節 本研究の枠組みと論文の構成

第I部 中国の社会構造と進学機会の不平等

第1章 重点学校政策と公立高校間格差

- 第1節 重点学校政策の実施とマンパワー論
- 第2節 重点学校政策の歴史的展開と公立高校間格差
- 第3節 効率原理による教育資源の傾斜的配分
- 第4節 本章のまとめ

第2章 戸籍制度と進学機会の制約

- 第1節 中国における特有な戸籍制度の概念
- 第2節 戸籍所在地と社会空間等級の形成
- 第3節 現在の中国における戸籍の移転とその障壁
- 第4節 本章のまとめ

第3章 中国における社会構造と社会関係資本の偏在

- 第1節 社会構造と愛国主義教育
- 第2節 社会ネットワークのあり方と資本の創出
- 第3節 社会構造における社会関係資本の偏在
- 第4節 本章のまとめ

第4章 社会関係資本を活かした親の教育戦略

- 第1節 教育行政の地方分権と公教育の市場化
- 第2節 社会関係資本の教育効果と進学機会の不平等
- 第3節 進学に対する親の教育戦略と社会関係資本の関連
- 第4節 本章のまとめ

第II部 中国内陸部貧困地域江西省の調査事例から

第5章 高校間格差と入学機会の不平等の構造

- 第1節 調査地域の概況と教育システムの構成
- 第2節 教育資源と大学合格率からみる高校間格差の実際

第3節 高校ランクによる生徒の社会的属性と進学機会の不平等

第4節 本章のまとめ

第6章 高校間格差を意識した親の教育戦略の事例研究

第1節 本調査の対象と研究方法について

第2節 「択校生」制度の利用者と非利用者の理由

第3節 社会関係資本の多寡による「択校生」制度の利用

第4節 本章のまとめ

第7章 高校在学時のコミュニティと社会関係資本の獲得

第1節 本調査の対象と研究方法について

第2節 保護者会の風景から見る親のネットワークのあり方

第3節 インタビューから見る親のネットワークの構築

第4節 本章のまとめ

第8章 高校卒業時の教育戦略と社会関係資本の影響

第1節 大学進学に対する親の多様な教育戦略

第2節 多様な教育戦略と豊富な社会関係資本

第3節 教育戦略の取り組みができない現実

第4節 本章のまとめ

終章 全体のまとめと今後の課題

第1節 全体のまとめ

第2節 今後の課題

三、論文の概要

本論文は2つの部分に分けられる。第Ⅰ部は、中国の社会構造や教育政策を考察したうえで、その社会構造に埋め込まれる社会関係資本が親の教育戦略にどのような影響をもたらしたのかについての理論的な文脈を検討している。第Ⅱ部では、第Ⅰ部の研究結果を踏まえ、中国における進学機会の不平等に影響する国家制度や教育政策の直接効果と教育戦略の迂回効果に焦点を与えて、江西省での実証的な研究を行う。

各章の概要は以下のようにまとめられる。

序章では、本論文の研究目的と課題設定を提示した。いままでの中国における教育機会の不平等に関する研究は、マクロな階層的分析を使用する量的な実証研究が主流であり、ミクロな親の教育戦略（ペアレントクラシー）などにあまり注意を払ってこなかつ

た。しかも、進学機会の格差が、社会的ネットワークに連動して生み出されていることも、利害があるという経験値としてしか理解されていない。

中国では、日本と異なり、塾などの学校外教育機関の利用などにかかわる戦略というよりむしろ、進学する学校の選択とそこに進むためのさまざまなフォローアップ（進学資金の調達、社会ネットワークの構築など）が「親の教育戦略」の中核であるといえる。そこで、本稿では、社会関係資本による親の教育戦略が子どもの具体的な進学機会の獲得にどのような影響を及ぼすかを検討することに主眼を置く。

第1章では、中国における重点学校政策が打ち出された社会背景とその展開、およびその展開の過程において生じた学校間格差問題を解明した。後発国としての中国は、先進国に追いついて近代化を実現するために、人材育成・人的資本を目的とした学校教育を重視した。そのため、限られる教育資源で効率的にエリート人材を育成するために、国家戦略としての重点学校政策が打ち出された。

重点学校政策は、教育成果に向けた効率原理によって、より早く優秀な人材を育成するため、限られた教育資源を一部の学校に集中的に配分することになった。こうした教育資源の傾斜的配分が行われたことで、物的教育資源と人的資源の格差から、学校間の格差が深刻化してきている。これまで実施された重点学校政策は、効率的に人材を育成することに寄与したが、学校間の格差を拡大して進学機会の不平等問題を引き起こした。

第2章では、中国における進学機会の不平等に関わる戸籍制度を概観し、それと進学機会の関係を解明した。中国の特有な戸籍制度により、各個人はその居住地において農業戸籍（農村戸籍）と非農業戸籍（都市戸籍）という2つの戸籍身分にそれぞれ登録された。それに、戸籍制度は、教育、医療、就労および社会福祉など様々な制度と連動しており、国民の社会的立場に大きな影響を与えてきた。そのため、中国における都市と農村が分離されて地域間の格差問題が深刻化してきた。

また、戸籍上で登録される出身地の行政等級によって戸籍が細かく区分されているから、同じ種類の戸籍であっても、戸籍所在地（戸籍上で登録される出身地）の都市ランクに応じた等級性が存在している。戸籍所在地が直接的に初等、中等ひいては高等教育の進学機会に大きく影響している。すなわち、中国の初等、中等、高等教育の進学機会には、良質な教育資源の地域的偏りや戸籍所在地によって不均等に配分される。

第3章では、中国の社会構造の特徴を説明したうえで、親の教育戦略に影響を及ぼす社会関係資本のあり方と獲得の手法を考察し、さらに社会関係資本に伴う不平等を検討してきた。中国社会では、秩序の創出と維持は少数の権力者と個別的な存在としての国家組

織によって行われる。そのため、資源配分の過程における個人の市場で所有する資源よりも、個々人の権力性の方が重視される。

そのような社会構造下では、異なる社会的集団に属する行為者は、構造的地位や社会ネットワークにおいて有利や不利があるから、社会関係資本へのアクセスに格差が存在する。社会関係資本は、行為者間の相互関係の構造に内在し、行為者が見返りを期待した社会関係に対する投資を通じて獲得できる資源である。社会関係資本へのアクセスに影響を与える要因は、行為者（親）本人のポジション、本人と他行為者（有力者）との間に結ばれる紐帯の性質、ネットワークにおける紐帯の位置の三つにまとめられる。

第4章では、教育行政の地方分権と公教育の市場化を説明したうえで、子どもの進学に対する親の教育戦略における社会関係資本の役割を検討した。改革開放の実施や社会経済制度の改革に伴い、教育体制の改革が行われてきた。その結果、教育の権限は高度な中央集権制から地方政府責任制へと変わり、地方政府と学校の自主権が拡大するようになった。高校では、重点高校は良質な教育資源を確保するため、「択校生」制度を始めた。大学段階では、大学入試制度の改革により、自主募集制度、推薦入学制度、特別な分野における単独募集枠の設定など多様な選抜方式が導入された。

高校入試の「択校生」制度を利用して重点高校に進学したい場合に、「択校生」を利用できるかどうかを決める地域の権力者とのネットワークが大きな役割を演じる。それと異なり、大学進学に対する教育戦略の取り組みは多様化・複雑化している。それゆえ、大学進学に対する教育戦略の取り組みを実現するためには、大学進学に関する情報を獲得できる効果的なネットワークの構築が別に求められる。つまり、社会関係資本は情報の流れを促進する効果と、重要な役割を担う組織のエージェントに影響を及ぼす効果がある。

第5章では、中国内陸部貧困地域の江西省K市を事例にして、教育資源と大学進学率という2つの視点から高校間格差の実態を考察し、重点高校と非重点高校における生徒の社会的属性と進学機会の不平等を検討してきた。重点学校政策による教育資源の傾斜的配分が行われたことで、物的教育資源と人的資源の格差から、大学合格率による高校間の教育格差も深刻化していることが明らかになった。

また、高校ランクによる生徒の社会的属性の構成から見ると、K重点高校とJ非重点高校の間に大きな差が存在している。それゆえ、高校の入学選抜の過程において、業績原理以前に、戸籍という属性原理も強く働いていると言える。特に「択校生」という進学ルートにおいては、都市戸籍を持っている生徒によってかなり独占的に利用されている。つまり、子どもの社会的属性が親の社会的ネットワークと結びついて、K重点高校への進学機会が不平等となっている。

第6章では、中国内陸部貧困地域のK重点高校における「択校生」制度の利用という親の教育戦略を事例として、社会関係資本の格差による子どもの高校進学機会の不平等を検討した。そのために、高校生を持つ親へのインタビュー調査データを用いた。

「択校生」制度の利用において、家族や親族などのネットワークに埋め込まれた社会関係資本が重要な役割を果たしたことを示している。社会関係資本が欠如している親は、進学先の選択を子ども自身に任せるしかない。これは、「択校生」制度を利用しないというよりも、「択校生」制度を利用できない閉じた現状にあると言ったほうが適切である。つまり、親の社会関係資本につながる進学制度によって、子どもの進学機会は影響を受けていた。

第7章では、K重点高校とJ非重点高校に進学した生徒の親のインタビューと観察に基づいて論述している。高校入学から卒業までに形成された親のネットワーク（親同士のネットワークや親と教師のネットワーク）に注目して、社会関係資本の獲得を検討してきた。親のネットワークのあり方は、高校在学時にコミュニティの違いにより異なる。K重点高校におけるK市出身の親に限定される親グループがあり、閉鎖的な親同士ネットワークを形成している。一方、J非重点高校における多くの親は農村地域に分散しており、普段顔を合わせる機会は乏しい。そのため、親同士間のネットワークを築くのが困難な状態である。

また、K重点高校におけるK市出身の親は、所有する権力を利用して教師に生活の利便を提供することによって、教師と緊密なネットワークを維持している。J県出身の親も、積極的に教師とのネットワークを形成しようとするが、同じ地域で暮らした経験がなく、緊密なネットワークを作るのが難しくなっていた。一方、J非重点高校における農村部出身の親は、農村的な身分相応の意識があり、教師との交流に回避的な態度を持っている。また、J非重点高校の教師は、親の教育期待に応えようとならないため、都市部出身の親でも教師とのネットワークを作ることに消極的である。

第8章では、K重点高校とJ非重点高校に進学した生徒の親のインタビューに基づき、高校在学時に形成された親のネットワークが子どもの大学進学に対してどのような影響を与えるかを検討した。子どもの大学進学に対する教育戦略の形成に親のネットワークが機能している。この親のネットワークの違いと教育戦略が関連していることは明らかである。

具体的には、K重点高校の親たちは、子どもを重点大学に進学させるという明確な目標を持っている。その目標を実現するために、親のネットワークから豊富な情報を獲得して、多様な教育戦略を取り込んでいる。一方、J非重点高校の親でも、子どもをレベルの高い大学に進学させたいと欲している。しかし現実的には、親のネットワークからの具

体的な支援を得ることがないので、子どもの大学進学に対する教育戦略を実践することができない。このように、高校ランクによる親のネットワークの格差は、教育戦略の形成を媒介とし、大学進学機会の不平等に影響を与える。

終章では、以上の諸章での考察から得られた結論を示し、その理論的インプリケーションを明らかにするとともに、本研究の残された課題を提示した。本論文の分析を通して、以下のように考察することができよう。

第一に、中国の進学機会は、市場型のメカニズムをとりながらも、納付金による進学のチャンスや戸籍による進学のチャンスなど、国家制度や教育政策の影響を受けつつ構築されていると結論付けられる。進学機会の平等化を促すには、まず学校格差を拡大した国家制度や教育政策を再検討する必要があるといえる。

第二に、学歴社会の中国において、特に貧困地域の人々にとって、階層上昇の道が限られているため、高学歴の獲得は上昇移動を実現する戦略である。それを意識して対応するために、豊富な社会関係資本を有する親は進学に対して必要とされるネットワークに投資し、そのネットワークに埋め込まれた資源を獲得・利用することを通じて、戦略的に子どもによりよい進学機会を提供する。すなわち、子どもの進学プロセスにおいて、親がうまく資源（進学情報、進学に関するコネ）に富むネットワークに投資すれば、高い利益（より良い進学機会、将来の社会的地位）を獲得できる。

第三に、教育戦略の取り組みにおいて、生徒の学力や素行への家庭・地域の文化資本の影響あるいは勉学の援助への経済資本の影響だけではなく、地域社会での、とりわけ有力な教育関係者との社会ネットワークの構築・維持とそれに由来する社会関係資本も重要な役割を果たすことである。言い換えれば、社会関係資本が豊かな家庭が、新たな「ペアレントクラシー」（Brown 1997）の時代には、子どもの進学に有利な立場に置かれていると言える。

四、論文の独自性

本論文の独創性は、中国における特有の社会制度条件の制約下、高校生の教育機会について、階層構造に裏付けられた生徒の学力や素行への文化資本の影響あるいは勉学の援助への経済資本の影響などと異なり、地域社会の人間関係とそれに由来する社会関係資本の獲得と親の選択的教育戦略との関連が明らかになった点にある。

これまでの研究では見逃されていた中国内陸部貧困地域における高校間格差と親の教育戦略の実態と特徴を実証的に明らかにすることによって、社会関係資本の役割をあぶり出し、中国の教育機会の不平等に関するこれまでの研究の空白を埋める研究になったといえる。

五、今後の課題

本研究で事例として取り上げたのは、経済発展が遅れた内陸部貧困地域の都市であった。中国では地域間の経済や教育格差が非常に大きく、教育戦略を取り組む社会経済的文脈は必ずしも同じではない。こうした地域間の格差をも視野に入れ、地域ごとの親の教育戦略を比較することは、今後の大きな課題の一つとなる。

主要引用・参考文献

片岡栄美, 2001, 「教育達成過程における家族の教育戦略—文化資本効果と学校外教育投資効果のジェンダー差を中心に—」 『教育学研究』 pp. 259-273.

Coleman, J.S.1988, “Social capital in the Creation of Human Capital”, *American Journal of Sociology*, (94), pp.S95-S120.(=2006, 金光淳訳, 「人的資本の形成における社会関係資本」野沢 慎司編・監訳『リーディングネットワーク論—家族・コミュニティ・社会関係資本』勁草書房, pp. 205-241).

古賀正義, 2018, 「若者における「社会的孤立」の偏位—ネットワーク分析の調査視点から—」 『教育学論集』中央大学教育学研究会

侯利明, 2015, 「転換期中国における教育達成の生成メカニズム—家族の教育戦略に着目して—」 『日中社会学研究』 pp. 134-145.

篠原清昭, 2007, 「教育の市場化にみる中国の私教育費の構造変動」 『岐阜大学教育学部研究報告-人文科学-』第56巻1号, pp. 167-180.

張建, 2021, 『中国の教育格差と社会階層—中等教育の実像』東京電機大学出版局

Nan, Lin, 2001, “Social Capital: A Theory of Social Structure and Action”, *Cambridge University Press*. (=2008, 筒井淳也、石田光規、桜井政成、三輪哲、土岐智賀子訳, 『ソーシャル・キャピタル: 社会構造と行為の理論』ミネルヴァ書房

Brown,P, 1997, “The ‘Third Wave’: Education and the Ideology of Parentocracy,” Halsey, A.H.,*et al.*(eds.) *Education Culture, Economy, and Society*, Oxford University Press, pp. 393-408.